

研究課題	国際連携アクティブラーニングの実践研究
副題	～ICTで、つながる～共に学び育つ～そして広げる～
キーワード	協働学習 国際理解 アクティブラーニング 主体的情報活用能力
学校名	大阪市立東高等学校
所在地	〒534-0024 大阪府大阪市都島区東野田町 4-15-14
ホームページ アドレス	http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=h523502

1. 研究の背景

現状では、日本の生徒が国際舞台で情報発信するには、教師の積極的な体験場面設定が不可欠である。情報発信の手法である演繹の序論、本論、結論展開は、このような場面設定による実体験により効果的に獲得することが可能となる。本申請メンバーは、国際連携課題解決学習に取組、協議、プレゼンテーションにおいては、多くの知見がある。これら実践から、探究の共同体(Garrison, 2011)などの先行研究に学び、ICT 活用時の認知的存在感の向上、対面での社会的存在感向上のための基準を明らかにしてきた。一方で、国際連携課題学習は有志教員により行われているのが実情であり、継続的なものとするためには、各科目における対応範囲を明確化していくことなどが課題となっている。

東高等学校では、平成 23 年度より 28 年度まで文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、先進的な科学教育を推進してきた。既存のコンピュータ教室 40 台の生徒用コンピュータと普通教室などで活用できるノートPC25 台に加えて、タブレット 40 台が整備されている。しかし、現状では、教員及び生徒がフレキシブルに利用するためのコンピュータ機器の新規購入が困難な状況である。現状ある共通設定の PC は老朽化・陳腐化が進み、学校間交流等の校外イベント参加を含む実践の、情報共有やデータ処理などにおいて、さまざまな不具合が生じていたが、この助成によってこのような予算措置面での課題解決の一助となった。

2. 研究の目的

これらの現状を踏まえて昨年度の研究を継続させ発展させるため本研究のテーマ設定を行った。継続的な国際協働学習を通じ、アウトカム・デザイン、事前事後のインターネット活用モデルを構築する。情報伝達力、交渉力、合意形成力など、高等学校段階において求められる「グローバル人材」の基礎力と、ICT 活用能力を明らかにする。また、これらの力を育成するための取組の教科への具体的な展開事例を示すことをめざした。

実践としては、海外教育省(高雄市教育局)の協力のもと、生徒の深い理解を達成するために有効とされる Inquiry Learning(探究学習)と Collaborative Learning(協働学習)の手法を用いて、国際連携アクティブラーニングに取り組んだ。夏・冬の二度にわたり国際プレゼンテーション大会での発表機会を設定し、対面協働作業を通じた Conflict Resolution の体験をさせた。「相手を知ること(See)・体験すること(Feel)」にとどまらず、生徒たちに「内面化・生活化(Internalize)」させるところまでの活動を実施する。授業での取組とすることで継続性を保障することをめざした。

3. 研究の経過

本研究の授業実践に関しては、主として情報科の科目「社会と情報」で実施し、教科横断的にさまざまな学習を進めた。情報科の指導目的の柱である主体的な課題解決能力の育成を念頭に置き、さまざまなアクティブラーニングを取り入れた実践を行い、その実践研究活動における国際交流学習を以下のようにフェーズで遂行した。

事前:図や写真、グラフを提示しつつ進める事前交流、プレゼンテーションの作成

対面:コラボレーションのための英語、ICT 活用、交渉力の実践、プレゼンテーション作成

事後:協働プレゼンテーション実施場面の記録による評価、リフレクション

参加生徒や教員へのアンケート調査に加えて、フェイストゥフェイスの活動機会をとらえたインタビュー調査、さらに参加した生徒の進路を追跡調査するなど、本取組の成果を多面的な評価・検証を進めた。授業における共同研究の相手校としては、主に台湾高雄市立瑞祥高級中學、前鎮高級中學と生徒研究チームを形成した。実践を通して、生徒の主情的情報活用能力の高め、課題解決能力を育むのに効果的な授業モデルプランの確立をめざした。

4-7 月

海外共同研究相手校の教員とのミーティング

授業においてマルチメディアの操作・処理とネットワークの活用について習得させた

生徒研究チームで海外連携校と研究テーマ策定・研究活動開始

ネット利用で交流相手校とのミーティング

7-8 月(夏季休業期間)

夏季休業間を利用して交流相手の現地視察と交流打合せを実施(台湾高雄市)

ワールドユースミーティング国際プレゼンテーション大会参加 (滋賀県)

研究経過の報告を基本とした海外交流相手校との生徒による共同研究発表

高雄市教育局との連携で、滞在受け入れによる交流活動

共同研究の中間まとめ

交流相手校と夏の国際交流活動の結果と協働研究経過の報告による情報共有

今後の研究指針の再確認を行った

9-12 月

生徒協働研究テーマ研究継続

第 44 回日本教育工学協会全国大会参加 (川崎市)で本研究について担当教員が研究発表

12 月(冬季休業期間)

ASEP アジア太平洋学生交流大会プレゼンテーション大会参加 (台湾高雄市)

研究成果報告を含む海外交流相手校との生徒による共同研究発表

ホスト校滞在による交流活動

参加教員は大会公式教員ワークショップ参加

他の参加校による交流事例の研究

1 月～

生徒による研究成果のまとめ、リフレクションレポートと、報告書作成 最終報告・評価等

4. 柱となった二つの国際交流実践と参加生徒たちの学び

夏季休業期間に日本愛知県東海市で実施のワールドユースミーティング国際プレゼンテーション大会と冬季休業期間に台湾高雄市で実施の ASEP アジア太平洋学生交流大会プレゼンテーション大会への参加生徒の引率指導を行った。

1) World Youth Meeting 2018

大会日程 8月6日～7日 立命館大学びわくこさつキャンパス(滋賀県草津市)

および、日本福祉大学東海キャンパス(愛知県東海市)

交流日程 8月2日 海外チーム来日 空港出迎え 各地でホームステイ開始

～8月5日 ホームステイ期間 ホスト校中心の交流と発表準備の協働作業

8月8日 海外チーム移動 (愛知県・滋賀県から大阪府へ)

8月9日 大阪エクスカージョン 生徒によるボランティアガイド

8月10日 空港見送り 海外チーム帰国

大阪市立東高等学校の取組

高雄市立瑞祥高級中學・高雄市立前鎮高級中學とプレゼンテーションを実施 2 チーム

参加生徒のホスト校としてホームステイ受け入れ5名

大阪エクスカージョンの生徒ボランティアガイド参加 16名

2) Asian Students Exchange Program 2018

大会日程 12月28日 高雄市立高雄高級工業職業學校 (台湾高雄市)

交流日程 12月26日 東高校チーム高雄入り 空港出迎え ホームステイ開始

12月27日 記者会見 教員研修プログラム 教員交流会

～12月30日 ホームステイ期間 ホスト校中心の交流活動と発表準備の協働作業

12月30日 空港見送り 帰国

大阪市立東高等学校の取組

ホスト3校 高雄市立瑞祥高級中學・高雄市立前鎮高級中學・高雄市立林園高級中學

各ホスト校と事前交流 テレビ会議・SNSなどネットワーク活用

校内での参加生徒対象事前研修

各ホスト校とプレゼンテーションを実施 3 チーム

ゲストとしてホスト校のホームステイプログラムに参加 生徒16名

教員研修・交流プログラムに参加 教員2名



写真① 現地校内で交流



写真② 空港での記念撮影



写真③ 表彰式のステージで

3)参加生徒のリフレクション

これらの取り組みの学びを示すため、以下に参加した生徒たちのリフレクションを抜粋する。

WYM2018 参加生徒リフレクションより抜粋

1年英語科 女子

ホームステイを受け入れてみて一番感じたことは文化の違いです。

初日にゲストの子と名前の名字の話で盛り上がりました。台湾では同じ名字がたくさんいてジョイの名字が台湾で一番多いことも知りました。… 台湾の学校はとても授業時間が長いです。だから、頭がいいのかなとも思いました。… 淀川花火大会の日と一緒に浴衣を着ました。ジョイは初めて浴衣を着たらしくてとても喜んでくれました。一緒に浴衣を着て撮った写真はとてもお気に入りです。台湾で新年しか花火が上がらないことを教えてくれました。… 台湾の文化や言葉を直接触れることができるととても面白かったしもっと色々な国について知りたいなと思いました。

1年普通科 男子

今回 WYM2018 に参加できてとても良い経験ができました。… 、約1か月間チームメンバーと話し合い、演出を考え、十分に準備を整えて本番を迎えることができました。プレゼンテーションでは、たくさんの情報の中から必要な情報を選び出し、より細かく正確に伝えようと努力しました。ほかの学校の発表を見て自分たちにはない意見やアイデアを聞いたことで、改めて幸福とはどういうものなのかを考えられました。今回の WYM では、主にパートナー学校の生徒である台湾の生徒と交流がありました。お互いの文化などについても話すことができ、日本との違いや共通点などをたくさん知ることができました。WYM への参加は自身の英語力の向上だけでなく、自分自身の成長にもつながりました。

もう一度機会があれば参加してみたいです。

2年英語科 男子

This was the first time for me to take part in World Youth Meeting. At first, it was difficult for us to decide the theme of our presentation. We finally decided to talk about "music", which everyone likes. During making our presentation, we asked the students from Ruei-Siang Senior High School whom we have never met to send us pictures for the presentation.

I was a little nervous when I first met the Taiwanese students. However, they are very interested in Japanese culture, and we talked a lot about it. We became good friends soon. Practicing time was very short, but we did good job because everyone wanted to make a good presentation.

All other presentations were amazing. We were nervous, but thanks to our practice, I think our presentation was good. At dinner, I made friends with some Japanese students from other schools. I had a wonderful time.

I am really happy to meet the Ruei-Siang members. After the WYM, we went to Shinsaibashi to have dinner together. Even now we keep in touch by Line.

Actually, I wasn't going to participate in Asian Student Exchange Program in December, but through this event, I became to want to join it.

ASEP2018 参加生徒リフレクションより抜粋

1年英語科 女子

今回の台湾研修で初めてこのプロジェクトに参加した私は、初の海外ということもあり、飛行機やプレゼンテーションなどの不安が沢山ありました。しかし、それ以上にホストファミリーとの生活や日本との文化の違いにワクワクしていました。飛行機が台湾に着陸してから、沢山の台湾の学生と先生方が歓迎してくれているのを見て「ちゃんと溶け込めるかな…」と心配していた気持ちがいつの間にかふっとんでいました。

台湾の学校は私たちが通っている日本の学校とは全然違って、本当に驚きました。授業は先生がマイクとプロジェクターを使っていて、中にはサンタさんの帽子をかぶりながら授業をしている先生もいました。また、教室の壁や柱、エレベーターの扉にいろんなテイストの絵がかいてあることにも衝撃を受けました。… 学校でのプレゼンテーションの練習はなかなかハードなもので、「マイクをちゃんと口に近づけて!」「ジェスチャーをもっとおおげさに!」と細かく先生がアドバイスを下さって、それをもとに自分達でも内容を確認しあたり出来たのでとてもやりがいがあるものを感じました。疲れていてもみんなの熱意に励まされ、最後の発表の時も全力を出し切ることができました。… 帰りの空港に着いてからホスト生徒が泣きながら「I love you!! You are my sister!」と言ってくれた時はとても嬉しくて、帰るのが本当に寂しく感じました。

今回のASEPの台湾研修を通じて沢山の貴重な経験をして、自分自身、とても大きな成長が出来たかなと思います。参加できて良かったです!ありがとうございました。

2年英語科 女子

英語で会話すること、プレゼンテーションすること、海外に行くこと、はじめはとても不安だったし緊張していたけど、とても良い経験ができました。プレゼンテーションのためにみんなで一生懸命練習し、協力し合えたことで本番大きなミスもなく成功させることができました。… ずっと英語で会話するのは少し大変だったけど、普段話す言葉じゃなくても、相手に伝えようとする、理解しようとするのはとても大切だなと今回ASEPに参加して改めて思いました。単語も文法も覚えられていないことが沢山あって上手く伝わらないこともあったけど、自分から話しかけて、お互いを理解しようと努力しながら英語でコミュニケーションをとることがとても楽しかったです。ASEPに参加して良い意味で沢山刺激を受けたし、外国の同年代の生徒と交流し、1つのものを作り上げる楽しさを感じることができました。

ASEPでの経験をこれから先の人生で沢山活かしていこうと思います。

台湾のみんなと過ごした時間はとても濃くて、本当に楽しくて、最終日、みんなと離れるのがとても寂しかったです。台湾のメンバーにも日本のメンバーにもとても感謝しています。一生忘れられない思い出ができました。

ASEP2018に参加して本当に良かったです。

I'm looking forward to seeing you again!!

Thank you very much!!

2年普通科 女子

今回台湾に行って、一番印象に残っていることは、友達がたくさんできたことです。行く前は、台湾についてプレゼンテーションの練習をして最終日だけ観光する感じだと思っていました。でも、想像とは違い、ホスト校についてたくさんの子が話しかけてくれて楽しいこともたくさんありました。チームメンバーと一緒にご飯を食べに行ったり、クリスマスギフトを交換したり、写真をたくさん撮りました。英語には敬語がなく、年齢関係なく会話できるから、一学年下の子ととても仲良くなれました。…本番もいい思い出になりました。後のパーティーでは、チーム内でも盛り上がったけど、会場の盛り上がりが印象的です。会場内がほとんど知らない人ばかりでも盛り上がる雰囲気に「海外きた。」と感じました。…夜市に行きました。日本の屋台みたいな感じで、人がいっぱい賑わっていて、週に2回あるらしく、羨ましいなと思いました。大好きなタピオカミルクティーもビッグサイズで飲んで幸せでした。最終日はクラスメートのたくさんの人と喋って笑ってとにかく楽しかったです。

台湾に行って、本当にたくさん初めての経験して、とても心に残る思い出ができました。台湾と日本で地理的に離れていても、SNSではいつでもつながっているの、今後も交流を続けていきたいと思っています。

2年普通科 男子

This was my first time to go abroad. So I was just nervous before I went to Taiwan. However host family, teammates, and friends gave me kindness. Because of I could relax and enjoy stay there.

I have one thing that I felt happy. That is I could make new friends. I joined WYM last summer so I had some Taiwanese friends. But there were lots of new encounters this time. So I was very happy.

That will be wonderful thing in my life.

I'll make this experience available to my future.

I would like to cherish this experience and friends.

2年英語科 女子

私はASEPに参加し、色々なことを学びました。その中のひとつとして慣れない環境で慣れない言語で話すことの難しさを学びました。日本語で言いたいことがあってもそれを英語に変換して言うと違う意味で伝わってしまったり、咄嗟に反応したいことが咄嗟にできずもどかしい気持ちになりました。4日間を通して咄嗟に反応できなかったことが少しずつできて行くことや、言いたいことを伝えるように話すことがだんだん出来ていくことを感じるのとても楽しかったです。プレゼンテーションの準備や、本番前には日常会話では使わない単語を言わなければなかったり、理解しなければならない時には辞書が必要でしたが、日常生活で辞書を使うことはほとんどなく過ごせて参加してとても良かったと思いました。プレゼンテーションも初日はどうなることかと思いましたが上手く行き、エクスカージョンでは色々なところに連れて行ってもらったり、たくさん乗り物に乗ったり、日本では経験しないようなことを学ぶことができてよかったです。また機会があれば台湾に行き、会いたいなと思いました。

5. 研究の成果

「違う」を埋める ICT 活用の観点・話し合いだけでは進めない高校生へのサポートを ICT 活用に求める。国際協働作品制作のための ICT 活用の知見をさらに蓄積できた。インターネットの活用、協議のための手順、論議をサポートするための図やチャートの活用などが実践研究により実現した。本実践は教室内の仮想で行う実習ではなく、情報ネットワークと ICT 機器を活用した国際的な協働作業という現実的な活動をともなうものであった。主体的な情報活用能力育成のための効果的な授業コンテンツのサンプルになると考えられる。本助成により学校の予算措置では十分に実施することが難しい最も重要な実践の柱となるフェイストゥフェイスの協働作業による協働プレゼンテーションと海外での教員交流が実現でき、国際的な実証を受けている「探究学習」の実効的な国際モデルを提示する準備のめどが立った。

高校レベルでのグローバル人材育成の観点・継続的な学校間国際交流活動が取組の中心となる本実践の記録が、「距離」「意識」の隔たりを克服する教育効果の高い実践プランのモデルとして活用できることが見込まれる。近年、学校における国際交流活動の大きな課題として、単に思い出づくりの道具として交流活動が行われているという、いわゆる交流搾取問題があげられる。参加者相互の将来的なキャリアにこの学びが生きる (Internalize) という本研究の成果が、国際交流活動をともなうさまざまな実践においてモデルとなり、交流校相互の教育方法の改善に広く活かされていくように、機会をとらえてこの成果を発信し続けたい。

6. 今後の課題・展望

本実践研究で生徒たちが取り組む国際共同研究は、今後も継続的に発展させていきたい。国際プレゼンテーション大会だけでなく、将来的に国際学会等の学術的な発信場面に参加できる生徒の育成も研究成果に求めたい。また、さまざまな学校において、新たに同種の活動に取り組む場合や、今までの活動の改善を必要とする場合の知見として実践の成果を積極的に伝達し情報共有を図りたい。これらを遂行するための、人的・経済的裏付けが今後の課題となる。

7. おわりに

今回の助成によって、海外での交流実践活動を昨年度に続けて効果的に遂行することができた。しかし、大阪市立の公立学校では海外での交流活動や実践研究活動について、コスト面のみならずさまざまな制約があり自由な実践研究活動が難しい現状は変わっていない。今回の成果や知見を積極的に発信し、国際交流活動の活性化につなげていくとともに、より多くの機会で海外での充実した活動が実現できるように、各方面に継続的に働きかけを続けていきたい。

8. 参考文献

- ・「翼をもったインターネット国際交流マニュアル」 影戸誠 著 ‘2003 日本文教出版
- ・「コンピュータ教育のバグ」 池田明 著 ‘2005 日本文教出版
- ・「国際協働プロジェクト ASEP & WYM の実践と課題」吉田信介 著 関西大学高等教育研究第 8 号 ‘2017